

第 12 回 山縣市子ども・子育て会議

日時 令和元年 12 月 19 日（木）午後 3 時 00 分～

場所 山縣市保健福祉ふれあいセンター 3 階ボランティア室

議題 第 2 期山縣市子ども・子育て支援事業計画の策定について

配布資料 第 2 期山縣市子ども・子育て支援事業計画（素案）

出席委員 三輪聖子委員、富永裕子委員、柏木満美子委員、前田恵津子委員、
棚橋亮治委員、藤田真美委員、河村一彦委員、河野隆委員、横山みゆき委員、
堀井有沙委員、鬼頭立城委員、土井義弘委員、三島厚子委員、堀邦利委員、
丹羽洋子委員、加藤法子委員

欠席委員 木村麻理委員、丸茂亜希委員、早川真弓委員

傍聴人 0 人

事務局 子育て支援課課長 浅野晃秀、子育て支援課主幹 高井俊哉、
子育て支援課係長 正治裕樹、子育て支援課主査 丹羽仁美、
子育て支援課主事 高屋陽子

議事

事務局	～第 2 期山縣市子ども・子育て支援事業計画（素案）について説明～
会長	非常に内容が盛りだくさんですけれども、今ここだけではなかなか見きれない部分がありますが、今の説明の中でご質問ご意見等ありましたらお願いします。
委員	すみません。ちょっと質問というか訂正というか修正をお願いしたいなという点がいくつかありますが、まず 41 ページのファミリーサポートセンター事業の現状のところ送迎が「平成 30 年度については送迎が 85 件、高富児童館内での託児が 27 件ありました。送迎での利用が多く、定期的に利用している人が多い状況です」というふうにあるんですが、実際にこの送迎は延べで 85 になりますが、人にすると 2 人の利用になります。その人たちが定期的に利用していらっしゃるの 85 件という形になっています。この文章読むと送迎が全体的に多いように感じるんですけど、託児の方が圧倒的に多いのが現状ですので、ちょっと文言を変えていただいた方がわかりやすいかなと思います。
会長	送迎が 2 名の方が繰り返し使っているとのことなので、数としてはそんなに多くないということですね。「送迎の利用が多く」というところの文言を訂正していただくということよろしいでしょうか。

委員	すみません。44 ページですが、放課後児童クラブについて一番最後の提供体制の確保のところなんですけど、これの下から2行目のところに「高富小学校、富岡小学校、大桑小学校における6年生までの対象年齢の拡充」とあるんですけど、大桑小学校は6年生まで今やっておりますので、大桑小学校だけ消していただければと思います。
会長	大桑小学校はもうすでに行われているので、そこは削除することですね。他は意見どうでしょうか。
委員	61 ページですけど、今年から主任児童委員なったんですけど、「こども相談」ってあるんですけど、主任児童委員が子育てに悩んでいる方の相談に応じる。担当が福祉課とあるんですけど、これはもう行ってないってということで福祉課の事務局と確認しました。
会長	この事業は既に終わっている。この中にはもう既に終わっているものがいくつか他にもあるってことですよ。きっと。
委員	初めてこの会に来させていただいたので、少し勉強はしてきたんですけど、地域福祉推進計画っていうのは知っていたんですよ。その中にこの計画を立てるにあたっての基本的なことはなんなのかなと思ったときに、市長さんはよく子育て日本一の山口市って話してみえるんですけど、あんまり浸透してないですよ。あと子育て支援げんきっていうホームページがあると思うんですけど、こちらにも山口市でママになる。山口市は安心して子育てができる日本一の地域を目指します。とあるんですけど、この計画自身が日本一の子育てを推進していくための事業だということに捉えていいんですよ。ところが、この計画の中に子育て日本一っていうものが出てないんですよ。地域福祉推進計画には出ているんですけど、この計画の中に出ていないっていうのはなんか整合とるとこちらの計画にも書いてあるんですけど、それがとれているのかなっていうのと、子育て日本一っていうのは一体どういうものなのかなっていうことが読んでいて伝わらなかったです私には。前も何度か事務局の方にはお伝えしたんですけど、理念とかビジョンがないんだなと思います。平成22年にやまがたっこすくすくプランって出ていますよね。あれを読んでいるとどういう子育てするのかっていうことが具体的にわかるなと思ってはいたんですけど、前の計画とか今回を見てもどういう子育てを応援しているのか親さんも同時に親育ちしていくんですけど、その子育て親育ちをどう推進していくかって時に夢とか理念とかそういうものがちょっと弱いんじゃないかな。確かに書かれている文は3行ぐらいあるけど、それをもっとお母さん方お父さん方に強くアピールしてかないとこの全体の計画の推進が弱いんじゃないかなと思っています。

ニーズ調査がどんな風かデータは出ているんだけどこの前も事務局さんにニーズ調査の保護者の声は見せてもらえませんかとお願ひしたんですけど非公開ですからお見せすることはできません。どういう傾向があるのか私3月まで学校現場にいましたが、学校の評価もします。都合の悪い厳しいご意見ありますけどそれぞれの学校は公表しているんですよ。こういうことがあるんだね。こういう方向でいくといいんだね。学校運営協議会でそれが検討されてそして保護者の方にも共有されていくと思うんだけど、この委員会が持つその意味っていうのは、市民に対してやはり発信していくっていうことを考えるとそういうことってどうなのかなっていうことを思いました。だから、そのために理念とかビジョンがちょっと弱いのでシステムがうまく機能してないところがあるんじゃないかなと。この会議に出るにあたってずっと考えてきました。子育て日本一であると考えたら、岐阜市は5歳児健診をやっています。私が5歳児健診に執着しているのは、今山県市の非常勤の職員をさせてもらっています。スクールソーシャルワーカーという立場です。不登校の子の対応もしています。その不登校は3年生ぐらいから顕著になっていきます。中学生の中にはもう5年間登校していない子もいます。多くの場合は、早い段階に1年生とかあるいは保育園、幼稚園の段階でつながっている子は、中には市内の学校には自立、コミュニケーションが育って行ってそして次、特別支援学級に今みえるんだけど中学校になっていくときには、通常が今考えられるねって、お母さんが笑顔ではなしをしてくださる方がいます。ところが、その高学年くらいでお医者さんの診断が出たケースなどは、本当に自立のための力が十分でないために自分を否定し、保護者の方も苦しんでみえる。そして息詰まってしまうケースが多いと考えると、できるだけ早くにその子たちの支援の道が開かれていくといいなと本当に思います。高学年以上のケースは本当に苦しいです。どの担当の方も、どの保護者の方もみんな一生懸命なんですけど、苦しくなっていくていきます。だからそういうことを考えると、全国で5歳児健診をやっている自治体の割合は12パーセントと低いです。厚生労働省の統計が出ています。すぐにできるとは私も思わないです。財政のこともあるし、人のこともあるし、市長、お医者さんのこともあるし、だけどそれも含めたいくつかの選択をもっと考えていくための計画じゃないかなということも思っ、一つ5歳児健診ということについても検討はされていってもいいんじゃないかなということも思っています。3歳児健診で多くは「この子少しちょっと独特の考え方があるよね」と大体の保健士さんはつかんでみえます。特に保健士さんのレベルっていう

のは、今日午前中高富保育園さんに CLM というチェックシステムに参加してもらいましたが、通常の自治体より高い目でよく見てみえる。でもその次にどうつないでいっていかってということを考えたら、もちろん個別でケースワークをしてつないでくださっているんですけど、公にこのことを認めたくないというお母さんの気持ちはもちろん当然あります。将来のその子の利益を考えたときに、やっぱシステムがあってもいいんじゃないかな。システムを考えたらうで検討したうでそれはやっぱり山県市は必要ないねと、それはいいと思うんだけど、なんかそういう困っている子たちにできる方法があれば何でもこうしゃべってみたいという思いで今日来ています。迷惑な奴が来たなと思ってみえるかもわからないけど、特に自閉症スペクトラム、ASD。この子たちは早い段階で見つけにくいんです。特に女の子なんかは中学生、高校生で出てきたりします。それで、保育園、幼稚園の段階から元気な子は、すぐわかります。でもそうでない子はそのまま小学校上がります。上がってしばらくは「並びましょう。はいよくできました」こういう絶対思想で回っていくんです。でもその中にストレスを溜めながら行って、不手際を3年生くらいで出しちゃうんですよね、やがて自己否定を始めます。「どうせ俺なんか。めんどくせえ。」というように。結局すべての自分の選択を減らしていってしまうことはとても気の毒というか、何かできないかなと思っているんです。市内にもやはり虐待もあります。対応もいきます。そのお母さんは、どうにかしたいんだけどできなくてくって、子どもの首を絞めながら自分で189にかけるんです。それで、不登校になって学校へ行きなさいという雰囲気の中で生活をしている。おじいちゃんおばあちゃんも行かせたい。でもなかなか行かないし、子どもが高学年になると反発します。「もういやだ」って包丁を持ち出します。家族だからこれは許されるだろうと思って本気ではないんだけど、そういう行動をし始めます。なかなか苦しくてどんどん息詰まっていくケースがあると考えると、やはり小学校2年生までに療育とか次のところへつなぐかどうか、人生を決めていくと思います。先日、発達障害者支援センターの研修を受けましたけれど、愛知県のお医者さんでしたけれど、やはり小学校低学年までが大切だ。9歳になると、大人の脳になってしまうからなかなか対応が難しい。だからこそ小学校2年生まで、小学校2年生までにつなごうと思うと小学校から入っては厳しいんです。なぜかという、多くの親さんは自分の子は普通だと思いたいんです。通常の学級に入ります。でもトラブルを起こします。認めたくありません。それで、ようやく学校も一生懸命なんだな。そううちの子やっぱちよっ

と行きすぎたところがあるな、とだんだん認めていけば認知ができるようになっていきます。じゃあ、というところで医療につながっていくまくいくケースもありますけれど、そうでないケースは2年生をすぎるとやはりもう二次障がいが出てしまいます。そういうことが減らせないかなということを思っています。CLM ということを先ほどお話ししましたが、保育園さんで行ってみるととてもいい制度です。私も大体はわかってきたんですけど、特質のある発達の多少のでこぼこは誰でもあるんだけれど、そのことの特質でわざわざ苦手なことをガンガン詰め込んで教え込んでいくことは逆効果だ。良さを引き出して伸ばしていけばいい。だからみんなと一緒に座っていられなくても、それは今はOK という支援をする。そういう環境の中で、この子のひらめきはいいよねってそういうことを伸ばしていこうと保育園の先生が今やってくださっているんですけど、一つ残念だなと思っているのがこのことが親さんに伝わらないんです。なぜかという、いいことだと園内では一生懸命やっているんだけれど、保護者には伝わらないので、自分の子がそういう CLM の対象になっているということも知られていないケースの方も多くて、しかもどうしているのか具体的に話が進んでいかないケースがあって、小学校1年生入ってきます。でも、その子はやっぱり困っていくんですよね。どうしても勝手に体が動いてしまう。勝手に手が出てしまう。「じっと座ってらっしゃい」と言われるんですけどそれはできないですよね。あの、ただゆっくり大人になれば、ゆっくりきっちりとした大人な人間になっていくと思うんだけど、その前にそのきっちりすることだけを教え込まれていくと、不手際を起こしてしまうんですよね。そういうことを考えると、保護者の方の認知というか認識はとても重要になる。でも、そういうある意味、グレーのお子さん3歳ではっきりと診断が出るよう出ていないちょっと変わっているところもあるよねっていう、それくらいの子たちが結局は行き詰まってそして不登校にもなっていくやすい。不登校ケースの今、発達障がいがある子の割合は5〜6割です。山県市もほぼ同様です。そういうことを考えるとなぜ保護者方にうまく伝えられないのか、認識していただけないのかということが、財産がこうもったいないなということを思っています。そういう情報の共有のシステムそれはなんでうちの子がそのケースに引っかけると？検査に引っかけると？というクレームが入ったそうですけれど、それでやめてしまって、それは誰が決められたのかわからないんだけれど、そういう小学校、中学校を考えていくとそういうことがうまくつながっていくシステムができていくといいなと思っています。特に一番苦しんで大

変なのは中学校の先生です。もう行動も激しくなるし、SNS も使うし、もう全てのことが対応できるようになる。不登校になっても、顔を合わせられない子も現実にはいます。訪問してもお母さんには会えるけど本人とはもうずっと会えていない。でも一応生きていることは確認できる、そういうレベルですよ。でそういう事をうかがえると大人までをつなぐと引きこもりのケースだってやはり想定をしていかなければならないし、そういう支援をどこで改善につなげられるのかということを考えていけるといいなと思ってお話しをしました。そのためにはやはり、「子育て日本一」の日本一とは何かとういことはもちろん検討しなければいけないけれど、「山形市っていいよね」ってお母さん方に言ってもらえる、そういう市になっていくといいんじゃないかなという事を思っています。山形市っていいよね。子育てに夢が持てる。わくわく。安心。市民が日本一をえがける計画というのがやっぱり必要じゃないかな。小難しいことを書くのではなくて、このホームページもいいと思うんだけどこういうのとリンクする様な一体の計画になっているといいなということをおもいました。勝手な思いだけで話させてもらいましたが、具体的にいうともっと言いたいことはいっぱいあるんですけどその、細かなことでは、小規模な問題もあって、これは担当の方にはお伝えしたことなので言いますけれど、1 か月とあって皆さんどうやって書かれますか？かでひらがなの「か」かカタカナの「カ」なのか、カタカナの「ケ」なのか、漢字なのか、この中には全部出てるんです。このことの統一をしたほうがいいということをお話したんですが、残念ながら統一されていない。たぶん係によってその担当の方が書いてみえるので、お任せしてあるのにそんなことに意見するのはというところまでいってためらわれるのではあると思うけど、それは乗り越えるのが当然であって、そんなことくらいはやっていかないと。日本一の計画かということをお他の市の人たちにも伝わってこないということがあってずっと思っているんです。もう少し具体的にいうと、「など」と漢字の「等」。これは地域福祉推進計画でもある程度整合がとれているなということがわかるんですけど、そうでない部分がありますし、それをこの会議で全部精査することができないのはわかるんですけど、それを誰がやるのか誰が精査するのか。「何々していきます」の「していきます」が漢字で表記されているところがあったりとか、情報共有とか、もっと共有していくことが必要があるんじゃないかな。「日本一」という言葉にわたしはすごくわくわくしているんですよ。そういう思いで今日ここに出させてもらっているんですけど、そういうことも含めて進めていけるといいなと思

	ました。
会長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。今、すごくいろんなものが盛り込まれていましたが、表記に関してはやっぱりどこかで統一して決めていただければいいかなと思います。そして一番大きなテーマは「日本一」なのかもしれませんけれども、それを他の市町村と山縣市はここが違いますよというのが、ここが大きく違うんだということが表面にわかってくると、それを見ていただくと、保護者の方たちにも市民の方たちにも伝わるというような、ここが違いますよということが出てくるといいなというのがこれは私の意見ですけど、思います。それで、先ほど5歳児健診の話がでましたが、今山縣市では5歳児健診はやってみえますか。先に何かそういう計画があるかないかわかりませんが、市として何か検討してみることがありますか。</p>
委員	<p>今の段階では5歳児健診というのは考えてはいないですが、5歳児健診を実施するにあたり、小児科医の確保ですとか、今の健診は大学病院の先生と市内の小児科の先生に来ていただいていますけど、大学病院の小児科の先生もいろいろな分野の先生です。5歳児は社会性を基本的に見ないといけないと思うんですけど、自動発達の専門の先生が毎回来ていただけるわけではなく、若い先生もみえますし、そういった先生のとくもあるんですけど、それがみなさん受けられるとなれば確保しないと、先生にいいって言われたから自分の子どもは問題ないというふうに思われてもまた困るので、基本的によそでやってみるところも小児科の先生に見ていただいているとは思いますが、アンケートで社会性とかどういうふうかというのは聞いてみえるとは思いますが、そこらへんで判断するときにはかなりそういった専門の医師と見つかった後のフォロー体制もいると思うんです。今は希望が丘とか長良医療とか網代とか3つくらいがたぶん児童発達の医療機関だと思うんですけど、そちらのほうを受診するにあたって、予約をしても3か月待ちとか、そういった状況がある中で、見つけたとしてもその次に送るときに、何か月待ちということになってくる。3歳児健診のフォローも約半分がフォローになっていて、保育園さんや幼稚園さんにおうかがいしているような状況で、またその年中児さんになると思いますが、そういう方が何人かいたときにどうしていいかということも考えての健診を実施しないといけないと思いますので、まだそのフォロー体制であるとかそのへんも含めて検討していかないとだと思いますので、でも今後必要であるとは思っていますので、考えていきたいなと思っています。</p>
会長	<p>他にもいろんな意見を出していただいたんですが、他の委員の方も含</p>

	<p>めてこれからの計画ですので、こういうところをもっと見直したほうがいいのではないかとということとか、できることできないことはあると思いますので、どうでしょうか。</p>
委員	<p>今の委員の意見のなかで、保育園から小学校に上がる時の連携というのが少しあったかなと思うんですけど、今ずっと持っているファイル、何でしたっけ。</p>
委員	<p>サポートファイル。</p>
委員	<p>そうそう、サポートファイル。その見直しをされているというふうには聞いているんですが、それはこのへんには載ってこないのかなとは思いました。</p>
委員	<p>今、サポートファイルは、今までは障がいがあるお子さんに対して作っていたんですけど、出生から出生届のときか具体的には検討中ではあるんですけど、全員の方にお渡しするっていうことで、親さんの記述とか、頼めば学校の先生だったり保育園の先生だったりとか、そういうところも書いていただいたりとかっていうような、あとで振り返ったときにわかるように予防接種の記録とかもそこに載せたらいいということで内容は検討中です。みなさんに自分のお子さんにお母さんが振り返って書いていることで、サポートファイルも来年度からですけど、配布する予定にはしています。</p>
委員	<p>そのサポートファイルを上手に使うと、発達にちょっと障がいとか難しい子も、普通の子にとっても、いろんなところで関わっている人たちがちょっとずつ書けるようになってくると、生まれてから18歳までいろんな人に関わってきたんだよということもまた親御さんもわかるし、ずっとつながっていけるのではないかなと思います。</p>
委員	<p>一応あの、基本の情報で医療機関とか病院機関とかいろんなところの関わりかがない子もいるので、そういう基本の様式とあとはその子用にいろいろ考えながらやっていこうかということまで話がいつている段階です。</p>
委員	<p>こういうところには載せないんですか。</p>
委員	<p>それは検討します、ご意見いただきましたので。</p>
委員	<p>そのことに関わって学校教育でいうと、岐阜大学の教授に3年間支援のあり方についてご教授を受けているんですけども、その学校の支援体制とかスキルアップにつながっているんですけども、その先生が指導してみえる2つのワードは「共有」と「見える化」。先生方が共有する、保護者と共有する、その共有の輪を広げていくということと、誰もが見える、その本人のお子さんも見えて何をすればいいかわかるし、いろ</p>

	<p>よっのご挨拶でも述べさせていただいたんですが、議会の一般質問で最後に締めくくった言葉が、そういう子育てサービスと申しますか、支援をもう少しもっとみんなにアピールする必要があると思いますと。全部一般質問の回答の最後をそう締めくくったんですよ。本当にそれが一番重要なことだと思うので、今後そういうことをなんとしてもやっつかんと、それが山県市のよいアピールとなりますのでやっていきたいなと。私の今の個人的な意見を申し上げました。</p>
会長	<p>一番は子どもが幸せに思って育つということだと思うんですね。それにはやはり保護者のサポートがかかせないので、そのへんもその日本一と言われると何が日本一かわかりませんので、市民の方たちがここがよかったと思ってもらえることが一番だと思いますので、そう思っただけのように、ぱっと情報が引き出せたり、あるいは困ったときにすぐ相談できたりというようなことがこの計画のなかに盛り込まれていて、そして誰でも使えるというほうへ持って行けたら、それこそ日本一な気がします。</p>
委員	<p>それに関わって、何回もすみません。福祉計画のほうでは「子どもを見まもる目と手と心」が掲げられています。これはずっと継続だと思うんですけど、「子どもを見まもる目と手と心」は大人の立場だと思うんですけど、子どもたちの笑顔というのが大切じゃないかなと思うと、そういう子どもの姿でえがける、子どもの笑顔日本一とかね、親さんの笑顔も日本一とか、笑顔になるっているのは何かシステムがうまく回って何か安心できて、自分も貢献したいという、うまい循環が市の中でできてることになると思うので、何か合言葉とか理念とか何かそのあたりをはっきりしていくといいかなと思います。亀山市は「子どもの笑顔が輝く子育て交流のまちかめやま」、羽島市「子どもたちが輝く笑顔でいきいきと暮らせるまちはしま」、可児市「子育てしやすい地域づくりを目指して」、各務原市「すべての子どもと親が幸せを実感できるまち」、たまたま開いたものですけど、こういう親さんたちがえがきやすいとか、どこもそう変わらないようになっていくと思うんですけど、やっぱり山県市っていいよねというような話を実際に主任児童委員の会議に行っても手厚いとかね、そういう話は聞いてみえているので、やっぱりそういうことが市民の人に共有されるといいなということを思いました。</p>
委員	<p>すごくいいお話だなと思って聞いていました。わたしは引っ越してきて6年目くらいになるんですけど、気になることは、子育てはすごくしやすいので、でも公園がないとか、街灯が少なすぎて今の時期とかだ</p>

	とあんまり友達と遊びにいけない、家にいてもらうより友達と楽しく遊んでくれたほうがいいから、遊びにいてもいいよというけど早めに帰ってきてねとかそういう環境的なことで足りないことがあるかなどはぼつぼつ思ったりしますけど、でもとても好きです。
事務局	ありがとうございます。
委員	帰られる前に一つ聞きたいんですけど、高富児童館ってありますよね。市の子育て支援センターは高富児童館なんですね。なぜ山口市児童館でないのか。高富児童館が今あるってことは、伊自良児童館や美山児童館は構想にあるのかっていうことですね。伊自良の図書館が山口市図書館、市の図書館になりました。だったら、子育て支援センターをクリックして次に、え、高富？というふうにやっぱり山口市全部をイメージしていることが言葉として伝わっていくことができるものでないといけないのかなということをおは、これも事務局に伝えたんですけど、なんかそういう偏見だとか心が狭いなどか思われるかもしれないですけど、エネルギーの少ないお父さん、お母さん方がたまたま見たりなんかするときに、この言葉が重くなることがあるんじゃないかな。自分が児童相談所に勤めていたときに、やっぱりそのエネルギーのある、つながりのあるお母さんはもうちゃんと生きていけるんですよ。でもそういういくつかのことが重なって不適應になっていく、誰でもなりえるんですよ、そういったときにクリックしたところがやはり山口市児童館であってほしいなということをおは思います。
委員	すみません。失礼します。
会長	細かいところはいろいろあるのだと思います。今日のテーマは第2期の子ども・子育て支援事業計画についてで、素案を出していただきましたが、その中でもっとこうしたほうがいいのかというご意見がありましたら。
委員	はい。9ページです。あの、9ページの何を求めたいかという、前期の計画の中で合計特殊出生率が載っているんですけど、前回のときは平成23年までが載っています。前回は平成15年から23年まで載っていて、今回は26年から29年まで出ているんですけど、スパンとして短いかなと思いました。これをずっとつないで見ていったときに、0.99というのは過去にも出ています。そういう小さい市なので、0.99というところがすごく低いように思ってしまうんですけど、長く見ていくとそれほどでもないということで、データとして載せていきたいと思うので、そうすると24とか25年のもあるといいかなと思いました。
事務局	わかりました。

会長	長いスパンであるほうが見やすいんじゃないかということですね。
委員	19 ページよろしいですか。福祉の専門家ではないので、言葉がわからなくてお聞きします。「地域子育て支援拠点事業」というのは、後ほどには出ていた気がするんですけど、これを読んだときにすぐどういうものかということが自分がイメージできなかつたので、ちょっと教えてください。
委員	地域子育て支援事業は現在、子育て支援センターの中にあります。主に親子が交流を図るための場所の提供と相談を受けられる環境と講座を行うことを目的にやっている事業になっています。現在は支援センター2階の遊戯室がこの事業の場所となっています。
委員	はい。
会長	親子が交流をしたり、遊んだりという、相談を受けたりというそういう場になっているということですね。
委員	27 ページいいですか。下線の意味は市内のどこの保育園にいてもいいよという意味ですよ。一つの区域のところ。住んでいるところと違うところでも行っていいよという意味で強調されているんですよ。
事務局	はい。
委員	そういったときにこの地図に魅力がない。なんかどこに保育園があるのか、見える化とかイメージしやすい、わかりやすいというのがとても大切でして、言葉を読む人はほとんどいないんですよ。やっぱり見たときにぱっとわかりやすい、えっこれ何？というのが、たぶん国がつくれと言って作っている部分もあると思うんですけど、こういうわかりにくい部分がある。どうですか。
委員	52 ページの乳幼児教室ですが、現在3つの教室を実施していますかとありますけれども、子育て支援センターでも乳幼児教室ということで各公民館、各地区年齢に分かれて行っています。それはここに含まれないのかということが一つ。64 ページの真ん中のミルクキッズ、今は支援センターでやっている乳幼児教室の中の一つとしてやっていますので、ここだけ別で、もともとは市のほうで別にやっていたので、今は一緒にやっています。
委員	のびっこと、すくすくと。
委員	つくしんぼ、小鳩会、0歳児はベビーママとミルクキッズということで、全部で6教室あります。
会長	その乳幼児教室のなかに、6教室が入っていると。
委員	でもこの文言を見ると、支援センターでやっている乳幼児教室には触れられていないかなというような気がしますので。

委員	市がやっている 6、7 か月健診と教室ということで、本来わたしたち自分たちがやっていた、平成 9 年くらいからやってきたものがまるっきり入っていない。それが今はちょっと市から委託を受けたものに移されたというものが忘れられているなど。
委員	すみません。母子保健事業の教室というふうに書いてしまったので、見る人にはわからないと思うので、またその辺も検討します。
会長	では、そのあたりは考えていただくと思います。
委員	すみません。妊娠期から産褥期の支援が大事になってきているかなと思うのですけれども、47 ページの妊婦健診。現在ははみがきけんしんのと一緒に行っている。
委員	はい、はみがきけんしんと一緒に教室もやっています。
委員	今後の方向性として、内容を検討しながら魅力ある教室づくりを行っていくとともに、参加者へのより効果的な周知方法を検討しますというふうにあるんですけれども、やはり今妊婦さんみなさん働いていらっしゃるの、平日というのはたぶん難しいなということはあると思うんです。ですので、土日開催だったり、両親学級、母親が一人では子育てができない時代なので、やはり家族、パートナーだったりを巻き込んでいくことが必要になってくると思うので、その辺のことを内容に盛り込んでいくとか、そういう考えはないのかなというのが。
委員	以前パパママ教室というのをやっていたんですけど、参加者が日曜日にしても参加率が悪かったので、あの頃はだいぶ前ですけど、今のお母さんたちとは違うけれども、文書でとか呼びしたりとか電話もしたりしたんですけど、けっこう人数を集めて開催をしていた経緯がありまして、ですのでたぶん周知だけとかチラシとかだけではなかなか集まりが悪く、土日にやる意味というかあまり参加率も高くなかったので、平日にやっているという現状があるんですけど。
委員	支援センターでも両親学級っていうのをやっていて、本当に産後の女性の体がどういうふうになっているかとかを夫婦で、パートナーと一緒に聞くことを重点に置いてやっているんですけど、本当に集客は難しいということを私たちも実感しているんですけど、やっぱりあの市でやるということと児童館がやるというのは違うと思いますし、お父さん方の姿勢もだいぶ変わっていると思いますので、再チャレンジではないですけど。
委員	わたしもそう思います。男女参画とか働き方改革とかで変わってきているし、イクメンじゃないけど、わたしも再チャレンジしてもいいかなと思います。

委員	<p>内容とかも、産科とかもそういうのを充実させているので、市がやっている内容と医療機関でやっている内容が似通ってれば、まあ来なくてもいいかというふうになってきますので、医療機関がそのへんをどういうふうにやっているかということも調べないと、土曜日なり日曜日なりにやったとしてもなかなか来ていただけないということもあるかもしれないので、今後検討させていただいて再チャレンジする、しないの内容も決めたいと。</p>
委員	<p>前は妊婦さんのお腹の大きい疑似体験とかありましたので、ああいうのはないかなと。</p>
委員	<p>産後ケアとか産後健康診断を始めるにあたり、そういう教室とかもすぐくやってみえるということもありましたし、そういう医療機関にかかってみえるのですごくいいという状況もわかってきたんですけども、何もない市のところに来ていただくということになるとそこらへんも検討させていただいて、今後の開催についても検討します。</p>
委員	<p>もう一つ今、産後ケアの状況も出てきたと思うんですけど、産後ケアのほう今年から始まっていると思うんですけど、利用のほうはどのようになっていますか。</p>
委員	<p>利用については宿泊型と通所型をやっているんですけど、宿泊のほうの実績はないです。通所のほうはありました。医療機関のほうも産んだところでというのが理想ですけど、なかなか空いているベットを使ってということになるので、そこに行けないということもありますので、日帰りに来ていただいて、リラックスしていただいたり、産婦健康診査でエジンバラのことなどもやっていただいているので、傾向のある人は医療機関からも連絡がくるようになりましたので、早期に対応ができるということになり、今やっている状況です。</p>
委員	<p>課題に第2子以降の出産においては、入院の際の上の子の預かりが課題になりますとありますとありますが、そうだろうなというふうに思うんですけど、例えば訪問型の支援とかそういうことは今後考えていかれるんですか。</p>
委員	<p>今の段階はとりあえず休憩する場所というのがメインになってくるので、小さい市なので保健師が訪問に行けているという状況なので、産後ケアを使って訪問というのは検討中ですけど、自分たちだけでなく助産師さんとか専門家の方に頼めればそういう方法も考えます。</p>
委員	<p>やっぱり家事援助だったり、ちょっと手伝ってほしいという要望もあると思うので、1時間、2時間でもいいので、家事なり上の子のお世話をしてもらおうと自分が楽になると思うんです。</p>

委員	<p>またそれだと違う制度を作らないとできないので、そちらは児童福祉のほうのところで考えてもらって、ヘルパーさんの派遣とかですよね。家事援助とか。</p>
委員	<p>ホームスタートというんです。そういう仕組みもあるので、そういうのを取り入れていったらいいなということですね。</p>
会長	<p>いっぺんにはなかなか難しいですね。できるところにはやっぱり支援は必要なので、考えていただければと思います。時間もあまりなくなってきましたが、保育園のほうでは何か、委員はどうですか。</p>
委員	<p>これに関してというか、いろいろ思うところがありまして、貴重なご意見を聞かせていただいて勉強になりました。親さんに伝えるのってなかなかすごく難しいところがありまして、わたしたちもアクションは起こしているんですけどなかなかすんなりとは受け入れられない面もありまして、保育園としては最大限の努力をしてはいるんですけども、やはりそれでは今後もまたちょっと考えていかなければいけないなと思いました。</p>
会長	<p>なかなかそれも難しいですね。保護者との信頼関係ですとか、人とのつながりがあつたうえでの伝え方ですね。幼稚園のほうはいかがですか。</p>
委員	<p>わたしは一点だけ、教育委員会のほうの管轄になりますけど、子ども・子育て支援という点からいくと無償化の件がありますよね。幼児教育の無償化の件ですけども、市町でやり方がいろいろ違うんですね。うちの園と教育委員会と無償化に関して本当に連携を取らせていただいて、手厚い対応でやらせていただいていますし、やっていますので本当に嬉しいのですが、議会ではこの無償化に対する議案は出ていませんか。</p>
事務局	<p>何も特には出ていないですね。ただ、議会の勉強会というのがあるんですよ。無償化したからその分お金が浮いたでしょという人がいますけど、実際にはそんなこと全然ありませんよ。実際には山口市は主食費といたつらごはん代ですが、副食費も無料にしておりますし、なので実際山口市には無償化といつても何もメリットがないという話をさせていただいたんです。それは数名の勉強会がありましたので、それを議会のなかで直接お尋ねになられた方はいないですが。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
委員	<p>時間がないので細かいことについてはいいんですが、意味の変わらない表記については事務局に直接伝えて検討していただくということではないんですかね。ちょっと細かすぎて。あと一つ思っていることは、保健師さんも市の職員の方も、保育園や幼稚園、ピッコロの先生たちも小学</p>

	<p>校の先生も中学校の先生もみんな頑張っているというのが市の力になっていると思うんですね。ただそれが共有が弱かったりするのでワンチームになれていない。だからそれをベストはない、でもよりベターなシステムとして共有されていくと子どもたちの笑顔が増えていくんじゃないかなと思っています。</p>
会長	<p>思いはすごく大切だと思いますので、それを実現する、どう結びつけていくかは一番難しいと思いますけど。養護施設のほうでは何か。</p>
委員	<p>先ほど言われた共有や相互理解というのがやっぱり、まあわたしたちも悩むんですけど、障がいのある児童が来るんですけど、それもやはりどこまで共有するかがケースによって違うので、やっぱり学校としても理解するためにはある程度の状況を伝えないとなぜこうなるのかという疑問につながるので、そのところを丁寧に理解していただくというのが大切じゃないかなと思います。先ほど言われた共有と相互理解ですけど、すごく大事ななと思います。</p>
会長	<p>委員はどうでしょう。</p>
委員	<p>はい。義務教育の学校の職員としては、委員がわたしたちの思いを代弁していただいていますので、一部繰り返しになりますが、こういったいわゆる計画を行政が作る際には、まずは専門でないとわからないという言葉があるとなかなか読み込めないし、途中で挫折してまいりますので、なるべく平易な言葉でお願いしたいと思いますし、ただ平易な言葉で書くとすごく長くなってしまいますので、どこかに言い換えとかその一覧表があるとわかりやすいかなと思います。もう一つは、これは逆のことになるかもしれませんが、踏み込んだ表現とか決断をしてほしいなということを思っていて、先ほどピッコロとか保育園でお子さんの発達についてもうちょっと詳しく検査をしたらどうでしょうかとか、医療機関に診断をお願いしたらどうですかというのは、すごくエネルギーがいることですし、相手の顔色を見ながら伝えないと難しい部分があると思います。わたしたちが保護者に伝えるようなものもともになるようなことは、例えばスクールカウンセラーさんであったとしても、保護者が求めたときにしか言えないとかというようなことが書いてあり、なかなか難しい部分があると思うんですよ。ですので、例えばこういうものに私たちのような立場とか保育園の先生とか公的な機関の先生がお子さんの発達のアドバイスを積極的にできるとか、医療機関につなぐことができるとか進めることができるとか、そういった文言を含めればそれを拠り所にできると思うんです。例えばの話ですけど。こういったものについては、平易な表現でがんばる人の背中を押していただけるような</p>

	<p>ものに全体としてなるといいなと思います。一つ一つについては、わたしもなかなか不勉強でわからず、こうするといいいよということが言えないですが、全体としてはこんなことを感じています。以上です。</p>
会長	<p>相手に伝わらないと何も進んでいかないので、わかりやすいことが必要だということですね。委員どうですか。</p>
委員	<p>恥ずかしながら、山口市の子育て日本一というのを初めて聞きまして、そういうふう山口市がやっていることを知らなかったの、ぜひいい方向にいくといいなということも思っているんですけども。わたしが子どもに関して怖いと思うことって何だろうと考えていたんですけど、学校や地域から見放されることが一番怖いと聞きながら思っていて、うちの子は発達障がいじゃないだろうか、グレーゾーンじゃないかと悩んだ時期があったんですけど、今、そういう子が多いと思うんですね。もしそういう子が学校に行きづらい、他の子に迷惑をかけた、さっきも情報を共有するというのがありましたけど、そういう子たちも安心して生活できるように、親御さんも安心していけるようにということを情報共有して専門家につないでいって、成長していけるようなものができると親としては嬉しいと思います。15年くらい前に不動産会社で働いていたんですけども、当時小さいお子さんがいた家族には笠松町がすごく人気で、どうしてかというとその当時笠松町しか医療費無料化していなかったんです。今はもうどこでもやっているし、山口市が保育料無料化を始めて今はもうどこでもやっているんですけど、山口市が日本一で何かっていうと、そういう一人ひとりの子を安心して育てられる、あそこの市に行ったら安心して育てられる。わたしは今、安心して子どもを学校に送り出せるし、何かあったら相談できるし、先生たちもよく見てくださっていて安心して、これが中学校に行ったらどうなるのかなと少し心配ではあるんですけども、そういうふういい方向に進んでいくといいかなと思います。あと5歳児健診の話もあったんですけど、うちの子は大丈夫かなと心配したのもちょうど5歳だったのを今思い出したんですけど、そのとき保育園の先生がすこやか相談はどうですかと言われて行ったんですけど、今はちがうかもしれないですけど、30分くらいで初めて会った心理士さんがテストをして、ちょこちょこっと話をして、ちょこちょこっとお母さんこうですねと言って終わり。結局自分が欲しい答えがもらえなくて、その情報が保育園にいったかどうかはわからないし、どうですかということもないですし、親がどうにかするしかなかったの、5歳ってけっこう重要な時期だと思うので、健診って何か発達とかのそういう機会があればいいなと思いました。</p>

会長	委員どうですか。
委員	<p>ピッコロ療育センターですが、前は言葉の相談室ということで発足させていただいたんですが、発達の支援をさせていただいております。言葉っていると、「しゃししゅしえしよ」とか「しえんしえい」というのが多かったんですが、今は言葉で相手を傷つける、パッと見た瞬間の感覚だけでものと言って相手を傷つける。そういったコミュニケーションスキルの低下しているお子さんが多いかなと思って、気持ちのトレーニング、今 SST が多いと思うんですが、それを含めてやらせていただいています。今すこやか相談の話も出ましたが、年長になるとやっぱり医療機関とか小学校に送り出すという点で大事なんですが、年中の時期ですこやか相談も踏まえてピッコロでは年中のお子さんにも発達検査、新版K式を行っています。6 か月以上空けないと発達検査を受けられない。同じことをやってしまって覚えているので、まず年中の中旬までには検査をしてもらって、その子のでこぼこさをお母さんにお話しして進めさせていただいているというところです。お母さんの大きな間違いは WISC 検査だと IQ が出てくるんですけど、新版K式ですと DQ が出てくるんです。その DQ は発達指数なんですね。それ IQ と勘違いされているお母さんが多くみえて、今 5 歳で受けると 5 歳が 100 なんです、それで 80 が出ていると 80 パーセントの成長がありますよということというのが DQ。IQ の 80 は知能指数で IQ80 となると、支援学級の対象の判断材料となってくるとなってしまうと、大きな問題があるので、まずどの発達検査を受けて、どのような数値を得たのかというのを、一人ひとりお母さんに説明させていただいているという状況です。</p>
会長	支援を進めていただくということですね。委員Mどうですか。
委員	<p>子どもが楽しく健やかに育っている山県市というお話だったので、わたくし実は放課後児童クラブに関わっていたことがありまして、いろんなところに行かせていただいたことがあります。高富では高富児童館ですとか、富岡は子どもげんきはうすですけど、地区によって放課後児童クラブの場所、立地が違ってくるんですよ。その遊具の有る無しですとか、広さですとか、全然それが違っていまして、例えば美山小学校では去年、おととしかな、放課後児童クラブが開設されたんですが、一つの教室に子どもが放課後児童クラブで詰め込まれています。先ほど委員が言われたように、さまざまなお子さんがみえて、さまざまなトラブルが起き得ています。おとなしい子がおとなしいまま過ごさなきゃいけない何時間というのが苦痛な状態になっていまして、そのある程度一つの場所ではなく複数の場所、げんきはうすですといろんな教室があるので</p>

	<p>すが、そういうふうに複数の場所があれば、支援が必要な子の場所、静かにしていきたい子の場所というふうに分けてあげることができるんですけど、今はそういう状態じゃないので、我慢しちゃう子は笑顔になれていない状態じゃないかな、そういう子のことも考えてあげたらどうかかなということは、考えて思いました。</p>
会長	<p>委員いかがでしょうか。</p>
委員	<p>今さらですけど、次世代育成事業の継承施策ということなので、ひょっとしたら今年度始められている事業ですとか、これからひょっとしたら載ってくるのではないかなと思うんですけど、これから参考に載せるのであれば、小さい子たちの事業だとかたくさんあるんですけど、先ほど委員がおっしゃられたようにどうしてつながっていかないのかと想っていた問題はいっぱいあるんです。私は高富スポーツクラブに所属させていただいている関係もあるんですけど、今、子どもの数が減って中学校の部活の数がままならなくなっているという現状を見ていきますと、本当に山県市で美山中も伊自良中も含めて、全員が参加できる総合型になっていかないと、部活動で一つのチームが作れないという状況があるんですね。そうすると部活離れ、スポーツ離れの子どもたちと、そういうことも関係して、不登校の子たちが背景にあるものは家庭だったり親だったりとかいろいろあるんですけど、せめてその子たちが小中で閉じこもらなくても何か生きがいみたいなものを持たせるために、そういうものを重視するとか。今、防災、防災と行っていますけど、ここできっと見ると性教育だとか薬物乱用の講習だとか、救急救命の講習がありますよね、このところ 2、3 年で中学生に防災士の資格を取らせるとか応募していますよね。そういうところの中学生が防災士とか防災に関する教室とかそういうものにもっと重視するとか、あとはゲートキーパーですよね、自殺防止事業で高中にも保健師さんが事業に入られていることは知っていますので、そういうのは中学生に対する教室の中で充実させていただいて、事業として捉えていただくといいかなと思います。それがこの中に入っていくのかなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ちょっと時間が。</p>
委員	<p>あの、一つちょっと確認したいんですけど。先ほどお話しをしましたが、ニーズ調査の自由記述の分はわたしたち委嘱されている委員も見せてもらえないかということ、高富児童館の名前が変わらない雰囲気は伝わってくるんですけど、山県児童館がいいなど。今回すぐ答えを求めるわけではないんですけど、ニーズ調査の傾向などはわたしたちも知って共有していければいいかなということを一応お願いという形で心得て</p>

	<p>おいていただきたいということを最後に伝えたいです。NHK の番組にも登場してみた先生の本を読まれると一番最新でいいなと思います。自閉スペクトラム症という診断名も最新のもので記載されていて、その先生も ASD というか発達症があるというふうに言ってみえるんですけど、誰だってそんなの普通にあるんだという認識の中で、そういう特徴に対して支援していく教育していくということをそれが普通になっていく世の中になっていけばいいなということも思っています。やっぱりそういうお子さんがいっぱい普通にいるんだということを世の中の的に認めていけば、追い詰められることが減ってくるんじゃないかなと思って、先ほど委員がお話をされたけど、通常の範囲のお子さんだと思いますよ。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございました。いろんな意見をいただいて、これを集約するのはなかなか難しいんですけど、少しでも反映していただければありがたいと思います。今直せるところは直していただくというふうでお願いしたいと思います。では今回議題については、終了させていただきます。ありがとうございました。</p>